日本温泉科学会第 57 回大会

公開講演　4

首都圏を中心とした温泉開発の進展について

中央温泉研究所
甘露寺　泰雄

On the Development of Deep Thermal Wells in Tokyo

Yasuo Kanroji
Hot Spring Research Center

首都圏を中心として温泉開発が盛んになってきた主な理由について，次のように考えた.

1.　日帰り温泉の増加

大深度掘削の増加　　今まで温泉がなかった地域での温泉の出現（全国的現象）.
掘削費用の低廉化　　1 m 当たりの掘削単価の低下，5〜6 万円・m.
大深度掘削は平野部では成功する例が多い（23 区内）.

2.　日帰り温泉の特徴

既存温泉地と違う点　　安近短効果.
各種浴槽が楽しめる　　泡風呂，打たせ湯，露天風呂，足湯
　　温泉と真水，中温〜高温.
ときめき効果，驚き効果の演出　　エステ，ショッピング，スポーツ.
老若男女に向いている，活動範囲（モビリテイ）の拡大と駐車場の整備.

3.　宿泊型から日帰り型への転換

既存温泉地の魅力の低下.
宿泊客の現象と日帰り客の増加（現状はやや頭打ち）.

4.　都市の再開発とテーマパーク型温泉施設への企業投資の増加

温泉付きマンションの進出，温泉付き住宅，スパー銭湯，テーマパーク型.

温泉施設（大江戸温泉物語，ラクーア，豊島園庭の湯，世田谷瀬田山河の湯，平和島クーアハウス，多摩テックなど）の増加　ビジネスチャンス到来としてとらえる.

5.　高齢化社会と健康志向

温泉利用と老人医療費の削減効果.

6.　但し，次の問題点が指摘されている

都内での温泉採取量の地域制限（本物の温泉の供給には地域により限界がある）.

温泉の泉質：浅層で炭酸水素塩型，深層で塩化物型（高濃度），腐食質が含まれる，温泉に適合すれば泉温や泉質は問わないという傾向あり.

温度：100 m 当たり 2〜2.5℃ の孔底温度上昇.

排水規制の問題と地域による天然ガス噴出の問題など，レジオネラ属菌による汚染と浴槽の衛生管理の問題，特に循環濾過器の水周り配管の洗浄の問題.

地の利の活かし方，利用客の永続性，施設の改築，差別化への取り組み，特にマンションへの給湯と管理の問題.

最後の問題として，源泉間の距離や日帰り施設の適正規模と適正温泉量などが検討課題.